新病院は地域医療確保のために欠かせません

現在の市民病院は，建築から30年から40年が経過し，老朽化が著しく，修理修繕に要する費用が次第に増えており，数年先には病院としての機能が維持できなくなるおそれがあります。

現在，山陽小野田市の地域医療は2つの医師会（小野田市医師会，厚狭郡医師会）と3つの公的病院（山口労災病院，小野田赤十字病院，市民病院）とが，役割分担をしながら維持しています。地域医療を順調に保つには，病院と診療所の努力は当然ですが，市民のみなさんの支援なくしては成り立ちません。また，地域医療を充実させるには，市民のみなさんと医療従事者とがお互いに成熟した信頼関係の構築が欠かせません。そして，自分たちの世代だけでなく，子どもや孫の世代を含めて，後世の状態を考えておくことも必須です。医療は基本的に不確実であって，未完成です。個人の人生も不確実で，予想がつかない事態が発生することは稀ではありません。その不確実な世の中であるから，お互いに助け合って，支え合っていくことが必要です。

本市の地域医療の現状は，周辺の医療機関も含めて，全国的に見ると総じて恵まれていますが，救急体制，周産期医療，小児医療，高齢者医療など課題も多く抱えています。特に高齢者人口の増加により，これからの30年は慢性疾患やいくつもの疾患を有する患者さんの増加が予測されますが，いつまでも今の医療体制が維持できるとは限りません。現状ですら医療従事者の懸命な努力にもかかわらず，市民のみなさんの要望に適切に応え切れているとは思えません。

このような状況のなかで，市民病院の機能が喪失すると，急性期を担っている労災病院と一般・慢性期を担っている赤十字病院などに大きな負担がかかり，それらの病院が過酷な状態になります。気がついたときには，本市に公的病院が存在しなくなっているおそれがあります。

私は，本市から将来，公的病院がなくなる危惧を残さないことが望ましいと思っていますので，新病院の建設が地域医療の確保に欠かせないことを提唱しています。もちろん，労災病院や赤十字病院も同様に欠くことはできません。

現時点では新病院の経営形態や場所は定まっていませんが，他の病院との診療バランスを考慮しながら検討しています。どのような地域医療が望ましいかは，市民のみなさんの選択です。

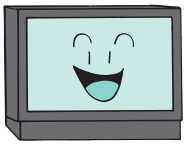
本市にとって新病院の建設だけが優先課題であるとは思っていません。ただ，市民病院の建物が老朽化しつつある今，考えている時間はあまり多くはありません。現在の状況だけで判断するのではなく，子どもや孫の将来に禍根を残すことなく決断されることを願っています。

（病院事業管理者　河合　伸也）

地上デジタル放送を見るための簡易なチューナー給付などの支援

総務省では，経済的な理由等で『地上デジタル放送』が見られない世帯（具体的にはNHK受信料全額免除世帯が対象）に対して，簡易なチューナーを無償給付するなどの支援を行います。

支援開始は平成21年秋以降を予定しています。具体的な申込先，受付開始時期は，準備が整い次第あらためてお知らせします。



※支援の申込みには，NHKと受信契約を結び，全額免除の適用を受けることが必要です。なるべく早めに契約手続き等をお願いします。

※支援は現物給付です。ご自身で購入したチューナー，アンテナ等の費用は精算できません。

《問い合せ先》総務省地上デジコールセンター（☎ 0570-07-0101）